

# [軽吐]ドセタキセル療法(食道)

外科 管理番号 D006

処方医:

適応症:食道がん

3~4週を1コースとして投与をくりかえす

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
ドセタキセル	●																						●

身長: \_\_\_\_\_ cm 体重: \_\_\_\_\_ kg 体表面積 \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>

[投与スケジュール] ( \_\_\_\_\_ クール目)

Day1( 月 日)

本管		側管	
薬剤名	投与量	薬剤名	投与量
生食250mL [90分 点滴静注]	1瓶	生食50mL デキサート注 [30分 点滴静注]	1瓶 6.6mg
		生食250mL ドセタキセル70mg/m <sup>2</sup> [1時間 点滴静注][壊死性] アレルギー症状注意 特に初~2回投与時 ほぼ10分 以内 投与中1時間観察	1瓶
		生食20mL [静注]	1管

DAY1( 月 日)~3( 月 日)

薬剤名	投与量
デカドロン錠	1回4mgを4回内服(当日昼食後、翌日朝昼食後、翌々日朝食後)

### [適性使用基準]

1. PS (Performance Status)が0~2である
2. 好中球が2000未満ではない
3. 感染症を合併していない
4. 重篤な骨髄抑制がない
5. 間質性肺炎または肺線維症がない
6. 肝障害がない
7. 腎障害がない
8. 浮腫がない
9. 重篤な心障害がない
10. 生理機能が十分に保持され、下の基準を満たす。

### [適正使用基準]

2. 重篤な感染症を合併していない
3. 髄腔内投与でない
4. 生理機能が十分に保持され、下の基準を満たす。
5. 機能障害を伴う重度の感覚異常又は知覚不全がない
6. PS (Performance Status)が0~2である
7. 生理機能が十分に保持され、下の基準を満たす。

### [DLF]

ドセタキセル 好中球減少  
ドセタキセル 好中球減少  
ドセタキセル 肝障害時用量調節

検査項目	単位	基準値
投与前検査	WBC	(/μL) 4000以上が望ましい
	Neut	(/μL) 2000未満であれば投与を延期して下さい
	PLT	(/μL) 8.0以上が望ましい
	HGB	(g/dL) 11.0 ≤
血清生化学検査	GOT	(IU/L) 82.5以下が望ましい
	GPT	(IU/L) 105以下が望ましい
	TBil	(mg/dL) 1.95以下が望ましい
	BUN	(mg/dL) ≤20
	Cr	(mg/dL) 1.05以下が望ましい

今回 累積

ドセタキセル \_\_\_\_\_ mg \_\_\_\_\_ mg

[骨髄抑制を考慮した投与量の調節]

WBC (/μL)	4000 ≤	2000 ≤	<4000	<2000
HGB (g/dL)	11.0 ≤	8.0 ≤	<11.0	<8.0
PLT (/μL)	10万 ≤	5万 ≤	<10万	<5万
ドセタキセル	100%	慎重投与		投与中止

初回投与量	1段階減量	2段階減量
70mg/m <sup>2</sup>	60mg/m <sup>2</sup>	50mg/m <sup>2</sup>
60mg/m <sup>2</sup>	50mg/m <sup>2</sup>	休薬

[重大な副作用]

ドセタキセル

- ・骨髄抑制
- ・ショック、アナフィラキシー様症状 [呼吸困難・気管支痙攣・血圧低下・胸部圧迫感・発疹等]
- ・間質性肺炎 [咳・息切れ・呼吸困難・発熱等]
- ・心不全 [呼吸困難・むくみ等]
- ・播種性血管内凝固症候群(DIC)
- ・腸管穿孔、胃腸出血 [腹痛・吐血・下血等]
- ・浮腫・体液貯留
- ・心筋梗塞 [胸痛・呼吸困難等]